

2010年4月から6月の活動

日韓学生交流会を開催 チヂミとお好み焼きの食べ比べ



5月29日、日韓学生交流会が開催され、日本の大学生等8名、韓国からの留学生11名がYMCAに集まりました。

まずかんたんな自己紹介の後で、お互いの国の文化の違いを知るアクティビティが行われましたが、韓国と日本の年中行事やことわざの違いを熱心に語り合ううちに、参加者の緊張はほぐれ、すぐに笑い声が聞かれるようになりました。

今回の一番のお楽しみは、チヂミとお好み焼きの食べ比べ。作り方は似ていますが味の異なる二つの料理を、ホットプレートを使って作り、食べ比べてみました。途中で何度もプレーカーが落ちるアクシデントがあったものの、いずれのグループもたいへん美味しく作り上げることができ、皆、大満足でした。

プログラムを通して親しくなった学生たちは、終了後も長い時間おしゃべりを続け、連絡先を交換し、再会を約束していました。

今回はボランティアリーダーの寺田瑞穂さんと崔秀任さんが準備や当日の進行を全て担当しました。今後、運営のボランティアにも多くの仲間たちが加わってくれることを期待しています。

連続講座共同企画

上野フィールドワーク 上野の山と街を歩く



昨年から開催され、現在、第3期の講座が行われている連続講座「移住者のリアリティ」と、今年、韓国併合100年・在日100年をテーマに開催されている連続講座「Cut'n'Mix(第3期)」の共同企画として、「上野フィールドワーク 上野の山と街を歩く」が6月5日、21名の参加者を集めて開催されました。

上野の商店街で社会学的な調査に取り組み、昨年の連続講座でも講師を務めてくださった五十嵐泰正さん(筑波大学専任講師/都市社会学)の案内により、上野公園、北上野、東上野コリアンタウン、アメ横、池之端などを3時間かけて歩き、観察しました。

YMCAからも近く、皆、日頃からよく馴染んでいる上野の街ですが、

かけはし

KAKEHASHI かけはし 2010 July vol.0

在日本韓国YMCAアジア青少年センター

〒101-0064東京都千代田区猿楽町2-5-5

TEL 03-3233-0611
FAX 03-3233-0633

http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/
ayc@ymcajapan.org

発行：在日本韓国YMCA
発行人：金秀男

深い歴史と実に多様な顔を持つことが五十嵐さんの詳しい解説によってよくわかったと、参加者にはたいへん好評でした。

この日の講座の詳しい内容、参加者の感想、また連続講座の今後の予定はYMCAのホームページで公開されています。

日本語学校開校20周年記念行事開催 芥川賞作家の楊逸さんが講演



今年、YMCA 東京日本語学校(旧校名YMCA アジア語学院日本語学校)が開校20周年を迎えたことを記念して、6月12日に記念礼拝、記念講演会、記念感謝会が行われました。

記念礼拝では、金秀男総務による祈禱

に続いて、田附和久校長が奨励を行い、20周年の歩みを感謝するとともに、これからも日本語教育を通して共生の種を蒔き続けるという学校のミッションを確認しました。

記念講演会では、中国籍として初めて芥川賞を受賞した作家の楊逸(ヤン・イー)さんのお話をうかがいました。楊さんはご自身が留学生だった当時の苦労話を交えながら、生きている言葉を習得することの難しさを面白おかしく紹介してくださいました。聴衆の学生たちには、言葉を学ぶだけでなく、文化も学んでほしいというメッセージが伝えられました。

続いて地下ホールから9階ホールに会場を移し、記念感謝会が行われました。金弘明前校長による挨拶の後、20年間勤続された李久美先生に感謝の花束が贈呈されました。

歓談を交えながら、出席した卒業生、旧職員、旧講師のお一人ずつから思い出やメッセージを語っていただき、また欠席者から届いたメールも紹介されました。多くの方がYMCAを故郷であり、帰って来られる場所と述べていたのが印象的でした。日本語学校に携わる全ての人々が、20周年の節目にこれまでの歩みを振り返り、これからも日々たゆまず歩んでいこうという思いを確認することができた素晴らしい一日となりました。

ソウルYMCA・在日本韓国YMCA共同 理事会交流歴史探訪旅行

ソウル/在日本韓国両YMCAの一層の協力関係構築に向けて、昨年韓国での開催に引き続き、来日したソウルYの17名と在日本韓国Yの8名を合わせ計25名の参加のもと、2泊3日(6/8-10)の理事会交流歴史探訪旅行が開催されました。

前日の歓迎晩餐会に続き、一日目は標高1800mに位置する天下の名湯万座温泉で宿泊、翌日は1959年12月に始まった在日コリアン北朝鮮帰国事業の歴史的現場新湍港に向かい、ポドナム通りを経て埠頭の見える展望レストランでしばし祈りのときを持ちました。そこから一路長野市松代へとバスは進み、翌朝松代大本営地下壕跡および資料館を探訪後帰京の途につくという、移動に大半の時間を費やす強行軍にもかかわらず笑いが絶えず、礼拝及び学びと交わりを通して両Yの一層の理解が深まり、豊かな温泉の恵みで心身共に癒される旅となりました。主の守りのうちに、無事終えることができ感謝です。



YMCA 在日本韓国YMCA
アジア青少年センター
Korean YMCA in Japan

かけはし

在日本韓国YMCAは、韓国YMCA全国連盟と日本YMCA同盟の双方に正式加盟し、アジア太平洋YMCA同盟、世界YMCA同盟に連なっており、この加盟の二重性に象徴されるように、ダブルの存在として『和解と共生』の架け橋の働きを担ってきました。創立100周年を迎え、次の世紀も在日コリアンを始め、年々その割合を伸ばしている在日外国人、そして社会的少数者、弱者と共に歩んでいくことを決意したわたしたちは、同時に、世界平和を考える上で避けて通れない東北アジア、中東を視野に、『和解と共生』の働きを拡げることも確認しました。そのひとつとして、今尚厳しい状況にあるパレスチナの東エルサレムYMCAとの交流を継続中ですが、1948年のイスラエル建国、故郷を追われたパレスチナ難民、4度にわたる中東戦争、幾度か合意された和平への取り組み、長大な隔ての壁建設等々、多くの情報に接しながらも、二つの民が共存できる平和なパレスチナの実現に向け苦闘している、パレスチナ人クリスチャンを始め、そこで生き抜いて来た人々に関しては余りにも無知で無関心であったことを思い知らされます。さて、『かけはし』を復刊することになったことを、まずは共に喜びたいと思います。「かけはし」と

『かけはし』 復刊に寄せて

在日本韓国YMCA
総務 金秀男

という言葉で、すぐにサイモンとガーファンクルの名曲『BRIDGE OVER TROUBLED WATER』を思い起こすのは私だけではないでしょう。日本語の曲名『明日に架ける橋』、若かりし時この曲を聞きながらずいぶん慰められ、勇気をもらったことを覚えています。この歌詞の内容どおりにはできなくても、少なくとも争いの只中で苦しみ嘆いている人々に関心を寄せ、寄り添い続ける存在でありたいと願っています。この『かけはし』がその一助となることを期待し、より良い紙面づくりに知恵と力を結集したいと思います。



歴代の機関紙・誌

contents

- 『かけはし』復刊に寄せて
- 「かけはし」を目指して—国際文化・日本語学校・ホテル—
- 4月から6月の活動報告—日韓学生交流会・Cut'n'Mix・日本語学校開校20周年・歴史探訪旅行—
- 7月から9月の予定

2010年 7月から9月の予定

- ◆7/17(土) 会員納涼パーティー(関西)
- ◆7/20(火)~8月末 韓国語講座夏季特別プログラム(10プログラム)
- ◆7/24(土) 連続講座Cut'n'Mix第III期「李箱生誕100年」
- ◆7/24(土)~25(日) 第30回 枚方サマースクール(関西)
- ◆7/28(水)~29(木) 第16回 生野つながりキャンプ(関西)
- ◆7/28(水)~8/15(日) 日本語学校夏休み
- ◆8/9(月)~11(水) ビビンパキャンプ
- ◆8/20(金)~22(日) 池成子先生招請 民謡・カヤグム講習会
- ◆9/1(水) 関東大震災87周年合同追悼礼拝



日本語学校
開校二〇周年記念講演会
芥川賞作家・楊逸さん
(6月12日)

募金にご協力ください

窓口持参 または郵便振替で 00190-4-539049 在日本韓国YMCA までお振込ください。

YMCA国際協力募金

すべての人々が国、民族、宗教の違いを認め合い、平和にいきいきと暮らすことができる社会をつくり出すための国際協力・地域奉仕活動のために用いられます。



オリーブの木キャンペーン

パレスチナの農民の土地を守り、平和を築くためにオリーブを植樹する東エルサレムYMCAのプログラムを支援します。1口3000円で1本の苗木を植樹できます。



◎国際文化部◎

徐宝覧 (ソ・ボラム)

在日本韓国YMCAの3階で働いている徐宝覧(ソ・ボラム)と申します。YMCAの3階には国際文化/日本語学校の事務室がありますが、今日は国際文化の仕事、その中でも「かけはし」としての心構えについて話したいと思います。

国際文化の仕事は大きく二つに分けられます。定期的な韓国語講座や韓国伝統文化教室の授業とキャンプや交流会などの特別プログラムです。定期的な授業は主に日本人や在日コリアンが韓国語と韓国の伝統文化を学び、韓国にもう一步近づく機会を提供しています。

一方、特別プログラムのキャンプや交流会には日本人と在日コリアンに限らず、韓国からの留学生、ニューカマーと言われる韓国人、韓国に住んでいる人も参加しています。日本人、在日コリアンとお互いに文化交流をしたり、一緒に生活している日本の社会について語りあったりします。

私は他の国の文化を知りたいと思っている人々の力になれる仕事がしたいとずっと思ってきました。誰でも相手のことが知りたい、考えをお互いに共有したいのではないのでしょうか。そのような人々に今まで、国際文化部は「かけはし」としての役割を果たしてきたと思います。約1年間、未熟ではありますが、国際文化の仕事に関ることができました。日本に住んでいる韓国人として日本と韓国の「かけはし」にはなれたかもしれませんが、本来国際文化が目指す国境を越える「かけはし」になれたかどうか、反省しています。

最近、日本語学校の仕事も担当するようになりました。今まで以上に、世界各国の学生に接する機会が増えるでしょう。3階での日本語学校と国際文化の「かけはし」を含む、いろいろな意味での「かけはし」にならなければいけないと思います。

◎日本語学校◎

逢見久仁子 (おおみ・くにこ)

『かけはし』の復刊号に原稿をというお話をいただきましたので、日本語学校スタッフのトップバッターとして「YMCA東京日本語学校」の紹介をさせていただきます。

日本語学校は、開校して今年20周年になります。開校時の校名は「YMCAアジア語学院」でしたが、アジアはもちろん世界中の国から、ここ東京に来て日本語を学んでほしいという願いから一昨年校名を「YMCA東京日本語学校」に改めました。

授業は月曜日から金曜日の週5日間、9時から午後1時まで1コマ50分の授業を4コマ行っています。現在は韓国、中国、ネパール、台湾、ルーマニア、アメリカ、ベトナム、バングラデシュからの学生たちが通っています。

日本語学習の目的や年齢などはさまざまですが“日本語を学ぶ”という共通の目標を持ち、毎日がんばっています。授業では日本語だけでなく日本社

会や日本文化について話し合ったり考えたりする時間もあります。

授業以外にもチューター制度やバザー、ボランティア活動などYMCAならではの体験をすることもできます。教科書の日本語だけでなく、生きた日本語を学び、日本語の理解を深める機会をたくさん作ることで、幅広い日本語力をつけて欲しいと思っています。

私たちの役割は、日本語という橋をかけ、将来の「かけはし」となる学生たちを育てることだと考えます。ここで日本語を学んだ卒業生たちが、世界各地で母国と日本とを、そして同じ教室で日本語を学んださまざまな国をつなぐ「かけはし」となってくれることを願っています。

◎ホテル・会議室・スペースY◎

金弘明 (キム・ホンミョン)

時々、電話でヤングじゃないけど、あるいはメンズじゃないけど泊まれますかという問合せがあります(もちろん泊まれます!)。いろんな誤解や謎を払拭すべく、この機会にYMCAホテルを紹介したいと思います。

まずは、宿泊された200人のお客さんに、どんなホテルだったか聞いてみました(インターネットの予約サイトに投稿された匿名のクチコミです)。朝食が美味しい、スタッフが親切、場所が便利、大通りに面していないので静か、清潔といううれしい評価の反面、古い、暗い、お風呂が狭い、冷蔵庫がない、壁が薄くて隣の音が聞こえるなど、なかなか厳しい声も聞こえます。いずれにしてもYMCAホテルの特徴がよくあらわれています。

部屋は55室で、1日平均48名が宿泊し、そのうち17名が外国人で、韓国人は9名です。ちなみに女性は19名です。週末は予約でほとんど満室です。また、小会議室からスペーススイマまでの集会室を、多くの市民団体やキリス

ト教関係の団体、企業が1日平均3件(3時間を1件として計算)利用しています。(※数字は昨年実績)

財政的にはYMCAの収入の半分強を支えています。建物は28年経っているので古い雰囲気はするの否めません。

聖書の「努めて旅人をもてなさない」(ローマ人への手紙12:13)という言葉がYMCAの宿泊施設のモットーとして掲げています。また、「旅人をもてなすことを忘れてはいけません。そうすることで、ある人たちは、気づかずに天使たちをもてなしました」(ヘブル人への手紙13:2)という聖句も大切にしています。日本に住んでいる方はもちろん、世界中の人々に気持ちよく使ってもらい、東京で自分の家のようにくつろげる場所でありたいと思っています。また、市民団体やキリスト教関係の集会をサポートすることで、その活動や様々な形のコミュニティが活発になることを願っています。



国際文化・日本語学校・ホテル
在日本韓国YMCAの屋台骨を支える3つの部門「国際文化部」「日本語学校」「ホテル」。それぞれの担当者スタッフから、YMCAが「かけはし」としての役割を果たすための決意と、部署の紹介をさせていただきます。

「かけはし」を目指して